



〔海の状況(2/16~3/15)〕

- ・ 神子地先の表面水温… 期間を通して平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりやや高め(平年差 0.5~1.0℃)で推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年よりやや低め(平年差-1.0~-0.5℃)から平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図2)

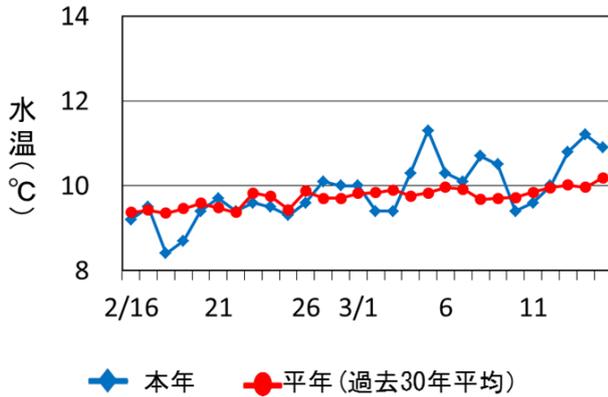


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

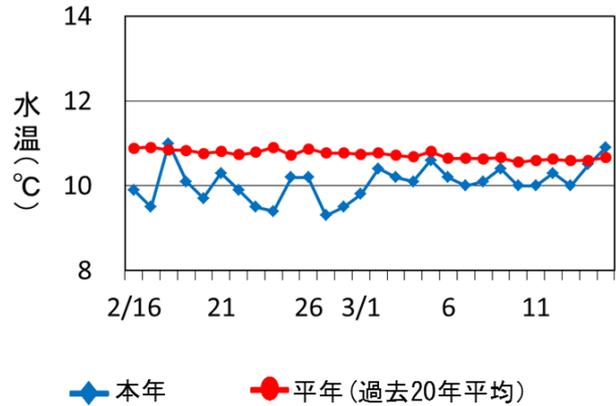


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)、水深50mおよび水深100mでは、若狭湾で10~12℃と前年より低くなっていた。(図3)

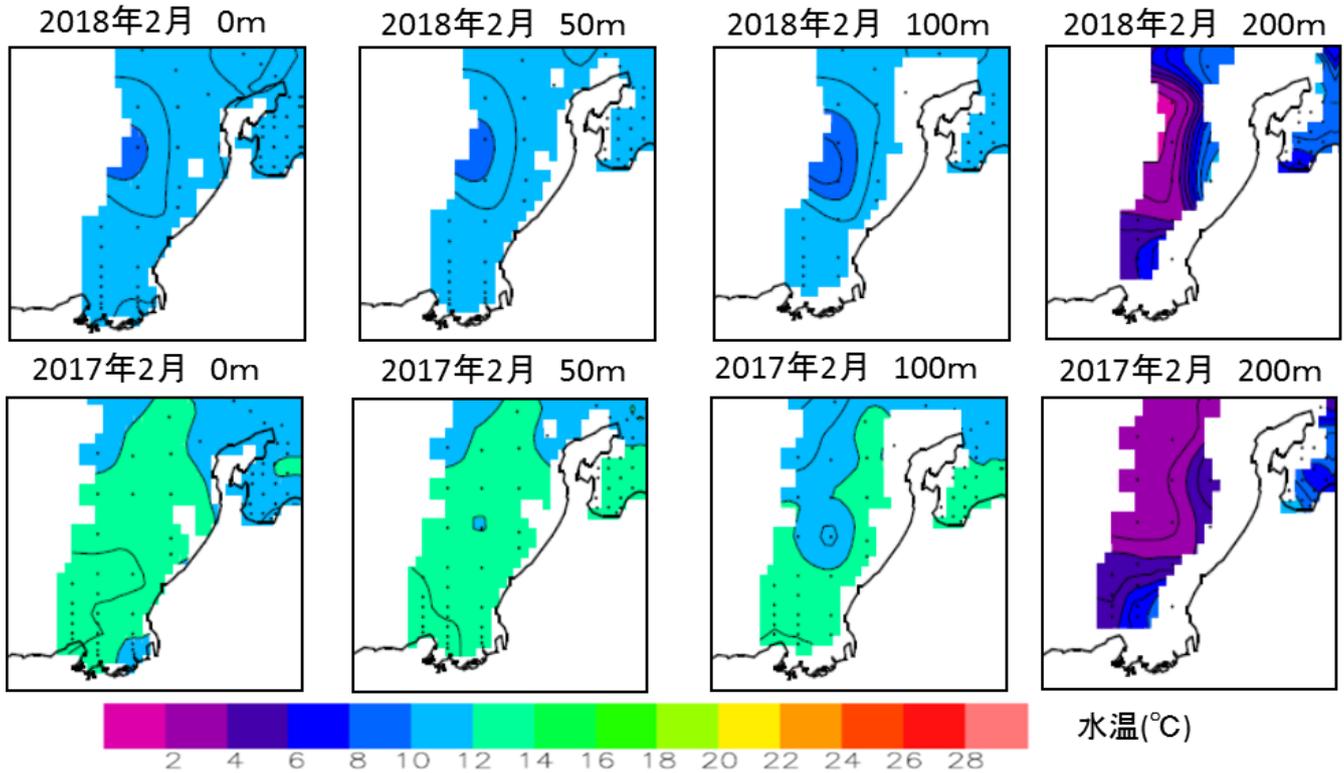


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

マイワシ漁獲量が増加しています

2018年のマイワシ漁獲量が、3月19日時点で79トンとなりました。これは、1～3月の過去20年平均(5.3トン)の15倍です。

福井県では1994年に1,470トン漁獲して以降、漁獲量は急激に減少し、2000年代は3～5トンの漁獲量で推移し、昨年(2017年)は5.7トンでした。

今年の漁獲は一時的なものなのか、今後も増加していくのか、注意して動向をみていきたいと思ひます。

(漁場環境グループ 山下 慎也)

〔県内の漁模様：2月〕

2018年2月の県内の総漁獲量は493tで、昨年同月と比べて86t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は37tで、昨年同月と比べて11t下回った。マイワシ、ブリ類、スズキ等は上回り、マグロ類、サワラ、ヤリイカ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は403tで、昨年同月と比べて88t上回った。アカガレイ、ハタハタ、ズワイガニ〔オス〕等は上回り、ヒラメ、その他カレイ、その他エビ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は53tで、昨年同月と比べて9t上回った。アジ類、ワラサ等は上回り、ヤリイカ、タコ類等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
マイワシ	692	0	3	692	690
カタクチイワシ	241	40	93	201	147
アジ類	1,922	3,397	13,075	-1,475	-11,153
マグロ類	139	3,335	1,441	-3,195	-1,302
ブリ類	2,082	740	5,501	1,342	-3,419
(ブリ)	1,183	68	328	1,115	855
(ワラサ)	36	401	235	-365	-199
(ハマチ)	12	265	718	-253	-706
(ツバス)	852	6	4,221	846	-3,369
サワラ	15,712	21,332	38,011	-5,620	-22,299
その他タイ	394	187	33	207	361
スズキ	6,436	4,140	3,531	2,296	2,905
ヒラメ	235	369	319	-134	-84
フグ類	534	613	869	-78	-335
メバル類	265	269	189	-4	76
ヤリイカ	2,019	4,851	4,872	-2,832	-2,853
その他イカ	1,759	632	184	1,127	1,575
タコ類	280	173	373	107	-93
その他	4,582	8,114	8,797	-3,532	-4,215
合計	37,294	48,192	77,292	-10,899	-39,998

底びき網の続き

魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
メバル類	398	281	347	117	51
キス類	504	45	652	459	-149
タコ類	2,733	2,535	4,608	198	-1,875
ズワイガニ〔オス〕	39,304	25,290	36,100	14,014	3,204
水ガニ	43,827	40,481	48,945	3,346	-5,118
アカエビ	1,779	1,440	6,972	339	-5,193
その他エビ	3,833	5,245	5,318	-1,412	-1,485
その他	28,852	23,183	25,874	5,669	2,978
合計	402,829	314,938	456,305	87,891	-53,476

釣り、延縄、さし網、その他の漁法

魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
アジ類	418	9	372	409	45
ワラサ	324	4	131	320	193
サワラ	368	438	2,023	-70	-1,655
マダイ	477	408	1,214	69	-737
キダイ	1,498	1,375	1,954	123	-456
その他タイ	142	72	322	70	-180
アマダイ	1,982	1,848	2,896	134	-913
スズキ	178	760	628	-582	-450
ヒラメ	1,178	1,051	2,393	127	-1,216
その他カレイ	4,589	3,807	7,296	782	-2,707
フグ類	187	93	51	93	135
メバル類	3,203	2,924	4,603	278	-1,401
ヤリイカ	463	1,759	3,853	-1,297	-3,391
タコ類	2,403	4,502	6,203	-2,099	-3,800
その他	35,428	24,844	58,073	10,585	-22,644
合計	52,836	43,894	92,011	8,942	-39,175

全漁法

魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
合計	492,958	407,025	625,608	85,934	-132,650

※1 平年の値は2008～2017年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：2月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：2月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：2月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：2月中旬～3月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ133.7t、スルメイカ5.9t、カワハギ(ウマヅラ)1.6t、マアジ1.4t、サバ類1.1t、ブリ0.7t

京都府…定置網…マイワシ35.0t、カタクチイワシ6.9t、サワラ類1.7t、ブリ0.2t、マアジ0.1t

兵庫県…定置網…マアジ163kg、スズキ71kg、ヤリイカ38kg、サワラ類20kg、カマス15kg

鳥取県…まき網…マサバ70.4t、マアジ17.6t、ブリ類6.6t、マイワシ0.7t、ウルメイワシ0.7t、カタクチイワシ0.3t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

大型クラゲ大量来遊による定置漁業操業の切りあげ前倒しについて

大型クラゲは、平成 14 年以降、日本海沿岸域に大量来遊し、本県でも定置網漁業や底曳網漁業等に漁業被害がありました。過去、平成 17 年度、19 年度、21 年度に大型クラゲが本県沿岸域に大量来遊したのですが、22 年度以降漁業被害が生じる来遊はありません。今回、大型クラゲの来遊状況と大量来遊により、定置網操業切りあげ時期に与えた影響について検討しました。

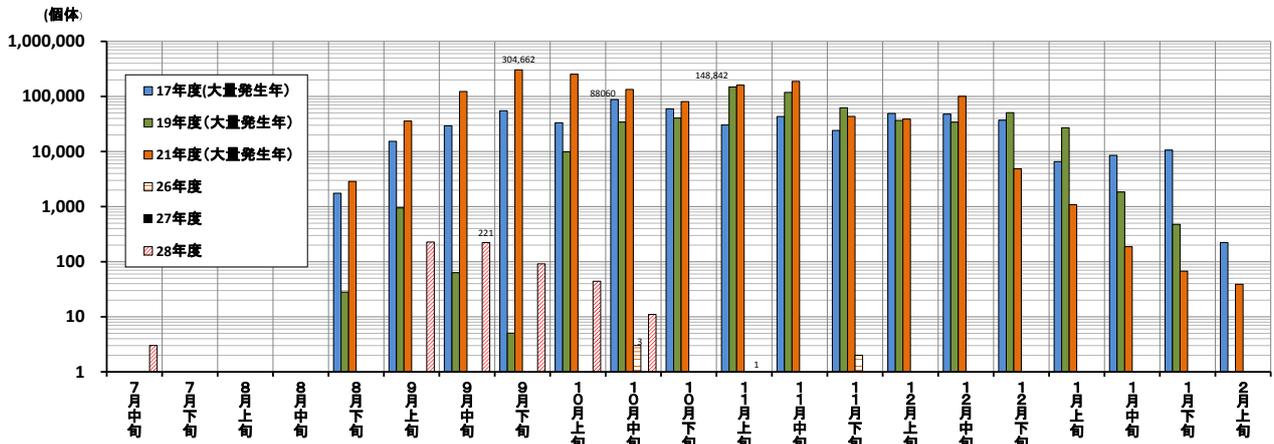


図1 大型クラゲ年度別来遊状況(定置網月旬合計)

図1に、大型クラゲの大量来遊年の17、19、21年と、最近3年間(29年は来遊確認数0個体であり図示省略)の月別旬別の大型クラゲ来遊数の推移を示しました。

大量来遊年は、いずれも8月下旬に最初の確認がされてから、1月下旬～2月上旬まで確認されました。28年は、7月中旬に3個体の来遊情報があったことから、大型クラゲ対策を考える上で、それ以前から発生情報等を注視する必要があります。

次に、大型クラゲの大量来遊による定置網漁業の操業期間に対する影響を推計しました。図2に、県定置漁業協会会員各定置網の平成22～28年度の7年平均の網揚げ日を基準日として、クラゲが大量来遊した17年、19年、21年の3年平均の網揚げ日の前倒し日数を示しました(各定置網は、A～Wで表記)。

最も前倒し日数が多い定置で87日、最も少ない定置で2日、平均すると41.3日、ほぼ1月半前倒しで操業を切りあげていた計算になりました。

水産試験場では、調査船による観測や関係機関からの情報を収集し大型クラゲに関する情報提供を行っています。

今後とも漁業関係の協力のもと、迅速に情報提供してまいりますので、よろしくお願ひします。

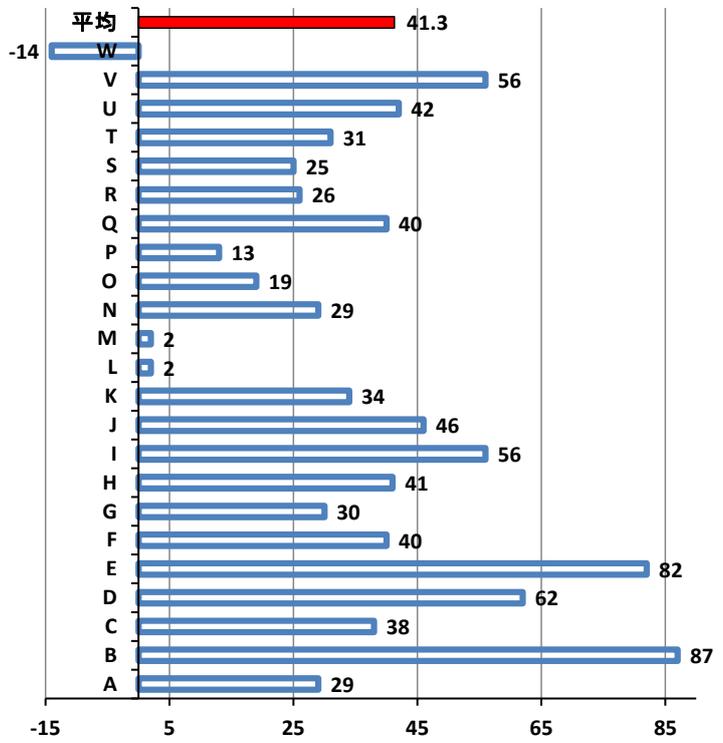


図2 定置網ごと操業切りあげ前倒し日数 (日)

(漁場環境グループ 渥美 正廣)